



news release

ポケットカード株式会社(8519) 平成 23 年 2 月期決算概況

営業収益 356 億 4 百万円、経常利益 16 億 52 百万円、当期純利益 13 億 10 百万円

※当社は、当期より個別財務諸表のみ作成しております。前期の比較対象としては、前期連結財務諸表数値を使用しております。

ポケットカード株式会社(8519)の平成 23 年 2 月期決算は、信用購入あっせん部門及びプロセシング部門が堅調に推移したものの、貸金業法の完全施行に伴う総量規制の実施等の影響を受け、融資部門においてキャッシング取扱高並びに残高が減少した結果、営業収益全体では 356 億 4 百万円(前期比 5.1%減)となりました。

費用面では、経営改善計画に基づいた全社的な業務効率化、コスト削減を着実に実行したことに加え利息返還関連費用が減少した結果、営業費用は 339 億 55 百万円(前期比 23.4%減)と減少しました。

これらの結果、営業利益は 16 億 48 百万円、経常利益は 16 億 52 百万円、当期純利益は 13 億 10 百万円となりました。

信用購入あっせん部門は、クレジットカード決済の浸透による市場拡大を受け、ショッピング取扱高が 2,798億90百万円(前期比2.2%増)と堅調に推移したことに加え、ショッピングリボ関連のサービス強化及び精緻な与信戦略の推進等によりショッピングリボ残高が増加した結果、営業収益は96億54百万円(前期比11.5%増)となりました。

プロセシング部門は、ファミマクレジット(株)の会員基盤の拡大に伴い保証債務残高が増加し、営業収益は47億86百万円(前期比28.7%増)となりました。

融資部門は貸金業法の完全施行に伴う総量規制の実施等の影響を受け、キャッシング取扱高並びに残高が減少した結果、営業収益は195億65百万円(前期比18.5%減)となりました。

以上の結果、営業収益全体では356億4百万円(前期比5.1%減)となりました。

営業費用につきましては、経営改善計画に基づいた、全社的な業務効率化、コスト削減が着実に進んだことに加え利息返還関連費用が減少した結果、339億55百万円(前期比23.4%減)となりました。

以上の結果、営業利益 16 億 48 百万円、経常利益 16 億 52 百万円、当期純利益 13 億 10 百万円となりました。

【 単位 : 百万円 】

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 23 年 2 月期	35,604	1,648	1,652	1,310
平成 22 年 2 月期	37,532	△6,818	△6,804	△4,104
前期比	△5.1%	—	—	—

以 上